

B級気まま旅日記

—北海道編— 富良野（その3）

日出彦

お待たせしました。北海道編の第3回です！ といっても、誰も待っていてくれてないよね。自己中で話を進めます。鈍行の旅もやっと富良野に入りそう。

[函館→札幌→滝川→富良野]

2004年7月19日（月）海の日

[時間が経ったのでお忘れかも知れないと思い、もう一度旅程をまとめてみる。実は自分が一番忘れていたのだ。]

- 7月17日（土） 羽田空港→函館空港（ANA） 函館夜景見学 湯の川温泉 ホテル雨宮館（泊）
- 18日（日） 函館市内見学 函館シーサイドホテルかもめ（泊）
- 19日（月） 函館→（札幌）→（滝川）→富良野（JR北海道） ペンションやんぐはうす（泊）
- 20日（火） 富良野見学 ペンション やんぐはうす（泊）
- 21日（水） 富良野見学 富良野→（札幌）→小樽 ホテル1-2-3小樽（泊）
- 22日（木） 小樽市内見学 ホテル1-2-3小樽（泊）
- 23日（金） 小樽→札幌 学会出席 ザ・ハミルトン札幌（泊）
- 24日（土） 札幌市内見学 札幌→新千歳空港→羽田空港（ANA）]



ホテルかもめ



かもめの群れ



ホテルで7:00に朝食を準備して貰った。通常朝食は7:30からだそう。昼間は本土並みの暑さだが朝はまだ涼しい。食べている間に宿泊客が三々五々食堂に入ってくる。親子連れやカップルであるが、満員とはいえない。休日だから遅いのだろうか？ それにしてもB級の宿は何かうら寂しい。刑事モノのドラマを見ると、行く土地の一流ホテルに宿泊して、超グルメの夕食をとる場面が出てくるが、視聴者サービスにしても現実感が乏しい。多分出張した現実の刑事は小生のような宿に泊まって、ぼそぼそと食事を掻きこんでいることだろう。食堂の窓は広くガラス張りになっていて、太平洋がパ

ノラマで眺望できるのだが、名の通り、かもめが窓際を歩き回っている。ホテルでかもめが窓の外に集まるようにかもめ用のベランダが作られている。かもめの群れは結構うるさい。カメラを取りに行っている間に、数軒先に移ってしまっていたのは残念だった。このホテルはかもめで付加価値を上げている。

7:50 にホテルを出て、路面電車の停留所までトコトコ歩き、函館駅に着いたら 30 分以上の余裕があった。とりあえず朝市を見学。まあ、見るだけではどうということもない。旅行誌は上手に写真を撮ってあるが、実物は大分違った。B 級トラベラーにとって、ここでの朝食は値段が高いので予め敬遠してあった。やはり、ここは食べないと活気が出ないと思った。

9:30 発の JR 特急北斗 5 号札幌行きに乗る。実は大失敗をした。というのは、Yahoo の路線情報で切符を買っておいたのだが、それによると、

函館 9:30-- (特急北斗 5 号) --12:30 南千歳 13:22-- (快速エアポート 133 号)
--13:55 札幌 14:00-- (特急スーパーホワイトアロー10 号) --14:49 滝川 15:20
--16:27 富良野

となる。しかし、北斗 5 号は札幌に直行するのだった。なぜ南千歳でわざわざ乗り換える必要があるのだろうか。これに気付かないで、南千歳までしか特急料金を払っていなかったのだ。車掌に話して札幌まで延長してもらって一件落着。これが一人旅のよいところである。

函館駅構内で大沼公園名物のだんごを買って列車に持ち込んだ。大沼公園は函館近傍の著名な観光地であるが、今回のスケジュールには入れられなかった。で、食べ物で間に合やす。函館本線は大沼公園を經由して長万部で左に分かれるが、この列車は室蘭本線に入る。歴史的には函館から旭川へつなぐ路線が函館本線で、倶知安、余市、小樽を經由して札幌に入るわけであるが、新千歳空港の開設や青函連絡船の廃止で函館駅のターミナル駅としての使命を終わり、今は名のみがかつての隆盛を示している。室蘭本線は名の通り室蘭を通る路線であるが、室蘭駅は本線から外れたところにあり、列車は洞爺、東室蘭、苫小牧へと走っていく。旅窓からは延々と起伏に富んだ海岸線が続き、トタン葺き屋根の苫屋や民家が次々に過ぎ去っていく。海辺の家はよくみると鉄さびやペンキの剥がれが進んでいて、もの悲しさを感じさせる。鄙びた風景は苫小牧まで続いた。ここからは左手に別れて千歳線に入る。南千歳、千歳を経て札幌には 12:59 着。

切符が函館から滝川經由富良野までの通しであり、札幌は通過駅であったため、外に出られず、やむなく駅構内で時間待ちをした。北海道一の駅なので構内売店も充実していたが、改札から出られないとなると留置場に入れられたようにあじけないものである。ウインドウショッピングができるパセオとか大丸とかのアーケードは外にあるし、時間潰しに困る。結局、味の時計台で味噌ラーメンを食し、シックスワンハーフでアメリカンコーヒーを喫した。

SWアロー10 号は特急といってもあまり気取ったところはなく、あまり混んでもい

なかった。再び函館本線に入るが、これまでと変わって列車は石狩平野と山間を縫っていく。車窓の緑を眺めている内に滝川に着く。ここから富良野までは鈍行の旅である。列車は2両連結で、車窓の景色は空知川に寄り添いながら進み、林や畑が続いていく。

富良野はさすがに観光地である。駅を出ると、バス停に多くの観光客がすでに並んでいる。駅に付属している案内所で地図を貰い、みどころを教えてもらう。実は「北の国から」スポットはここで初めて教えてもらい知ったのである。

ともかくも宿へ向かうことにする。ふらのバスラベンダー号の16:50発に乗り込む。本数が少ないのでバスは満員であった。基線にくるとすっかりリゾート気分の景色が続く。思い思いのメルヘンチックなプチホテルや売店が目につくようになる。宿となるペンションは珍しく一人でも泊まれるところでインターネット予約したものだ。ナトゥールヴァルトの停留所で降りる。正面にこの名前の大きなホテルがある。そこから2分ほどのところにペンションやんぐはうすがある。部屋は2人用だが、少しの割り増しで一人でも泊まれる。風呂とトイレは共同である。風呂は時間帯が違ったのか、他の客に会わなかったので貸しきり状態だった。風呂場の外にコイン利用の洗濯機と乾燥機が備え付けられている。風呂上りで洗濯をしていると、中国人の家族づれがやってきた。どこから来たのか尋ねると香港からのようだ。函館でもそうだったが、中国人観光客が多い。北海道のよいお客さんである。中国語の観光案内でもラベンダーなどの花畑が美しく宣伝されているらしい。

時間が早かったので、外に出て夕食をとることにする。歩いて基線の方に降りて行き、ウインドウショッピングを行った。といっても、そんなに店が多いわけではない。北の峰ゾーンといわれるところで、基線という地名は他にもあり、ここのは正確に言えば御料基線という。まずはセブンイレブン北の峰店で食料や消耗品の買い物をする。その近くにプチフルールという菓子工房があり、ふらのワッフルを味わってみた。まあ、普通のワッフルである。隣のだうんひるではソフトクリームが売り物で、本日初の賞味を行う。牛乳が豊富でコクがある。戻り道をさらに登って行き、バーバリアンというレストランに入る。結構なお値段なので、一番安そうなビーフシチューをオーダーした。ピルスナーの地ビールで食事を終える。

宿に戻ってもまだ時間がたっぷりである。扇風機しかないので汗がでる。もう一度風呂



に入り直した。ベッドであるが掛け布団は少女趣味でムーミンみたいな動物の模様である。今夜は明日に備えて、携帯品の整理と請け負っていた学会誌の解説をまとめることに専念することにした。

〔と、ここまで書いてきて息切れがしてきました。目玉のラベンダー畑は次回ということでご勘弁を！〕 (続く)